crushed past

広瀬毅（Takeshi Hirose)
建築家

粉砕された木材。それらがこれまで辿ってきた過去が解体される。あるものは家屋を支える柱や梁として。あるものは線路を支える枕木として。あるものは偶然芽生えた山中の同じ場所で長い時間を過ごして。それぞれの意志を形にしてそこにあった。粉砕された欠片はその意志をわずかに帯びながら、混じり合い、静かなホワイトノイズとなって場を満たす。耳を澄ましてみよう。創作者の意思はそのノイズの中のわずかなバイアスとして感じられるのみ。
ヒトのいなくなった遥かな未来。風化したノイズに埋め尽くされた意味なき世界に屹立する形は、何かを伝えることができるだろうか。

SPECIAL THANKS

長野森林資源利用事業共同組合（ウッドチップ）
シモダ木材（古材）
松代建設工業（古材・資材）
信州大学工学部建築学科の学生たち（設営）